

教員・保育士採用試験音楽実技内容とその対策

ー近年の傾向と ICT の活用に向けてー

Teacher/Nursery Teacher Employment Exam Music Practical Content and Measures
-Recent Trends and ICT Utilization-

小林田鶴子(神戸女子大学)
Tazuko KOBAYASHI (Kobe Women's University)

(キーワード)

教員・保育士養成、音楽実技、傾向と対策

はじめに

筆者の勤務する教育学科では、小学校教諭と幼稚園教諭、保育士を養成するためのカリキュラムが組まれている。その中で採用試験対策は「教職支援センター」という部署が担当しているが、音楽実技対策は音楽担当教員が中心となって行ってきた。

本研究は、近年の採用試験音楽実技内容の傾向とその対策について、実際に行ってきた学生への指導内容を紹介し、加えて今後の課題を述べるものである。

1.教員・保育士採用試験音楽実技内容

採用試験の音楽実技は、近年コロナ感染拡大の影響と実技試験縮小の傾向から、全国的に試験課題から外されている。

小学校教員採用試験の音楽実技を例にとってみると首都圏や大都市圏では、2016年度実施の試験から音楽実技は無くなっている。しかし、関西圏や九州圏は現在も音楽実技を実施する自治体が多い。

また、公立保育士採用試験でも、模擬保育の中で音楽を使う等、音楽的技能そのものを課す試験内容は少なくなっている。但し、この分野でも関西圏は他の自治体に比べて音楽技能を必要とする課題が出される傾向がある。具体的には、K市の保育士採用試験は、バイエル75番～106番の1曲が当日指定

される。また、コールユーブンゲン40曲中から当日1曲指定に加え、ピアノと弾き歌いの自由曲、初見弾き歌いを課す自治体もある。

私立の園は様々な内容があるが、この場合も公立と同様に、音楽技能そのものを課題にする園は少なくなっている。

2.教育学科での採用試験対策

本学科は1、2年の授業で、ピアノと弾き歌いのレッスンを行う「器楽」があり、ここで音楽技能の基本を身に付ける。ステップ別に進めるカリキュラムになっているが、昨年度から、2年生後期には採用試験内容を見据えたコース別選択性を導入している。

また、4年生の夏季休暇には、受験自治体ごとに対策レッスンを集中して行う。受験生の多い自治体の課題レッスンはグループごとにまとめて実施する場合もある。

3.今後の課題とその対策に向けて

先述した、コールユーブンゲンを課する自治体について、「保育士は様々な場面に遭遇する為、難しい課題に挑戦する意欲を見ている」という考え方もあるが、それならば、もっと現場で活用できる課題がふさわしいと感じる。また、現場でのICT活用や、電子ピアノのレッスン機能を使った課題曲の練習など、採用試験対策の方法も工夫する必要がある。

る。

今後多様に変化する教育保育現場に対応できる力を判断する為の採用試験内容そのものと、その対策方法が問われていると考える。